

## ◆インターネット活用教育実践コンクール実行委員会賞◆

〈社会教育部門〉

## 「仮想企業プログラムを使った地元企業との産学連携」

共愛学園前橋国際大学（群馬県）

〒379-2192 群馬県前橋市小屋原町1154-4

## ■実践事例報告の概要

仮想企業プログラム「バーチャル・カンパニー」を使用し、仮想企業を設立した学生たちは地元企業の支援・協力を得ながら、新しい製品やサービスの開発に取り組んでいく。その成果を反映したHPを作成し、バーチャル・モールにUPして、他の参加校とインターネット上で売買活動を行いながら、企業運営や電子商取引を体験する。これまでの成果として、地元企業によって、商品化されたり、ブランド化されたりしたものが出ている。

## 実践のねらい

本学では、2003年度から「バーチャル・カンパニー」（アントレプレナーシップ開発センター）を教材として授業に取り入れている。

「バーチャル・カンパニー」とは、現実の社会の課題や産業のしくみなどの理解を通じて、国際化・情報化時代に対応するアントレプレナーシップ（起業家精神）あふれた人材育成をねらいとして開発された教育プログラムである。このプログラムを使用し、仮想企業を設立した学生たちは地元企業の支援・協力を得ながら、新しい製品やサービスの開発に取り組んでいく。その商品開発の成果を入れたHPをバーチャル・モールにアップして、他の参加校とインターネット上での売買活動を行いながら、企業運営や電子商取引を体験していく。

それにより、電子商取引のノウハウやそのために必要なITスキル・情報倫理の習得、地元企業と関わりをもつことによって社会で必要とされる能力の認識、企業経営に必要なプロセスの習得、地元産業への理解の増進などを目的としている。

## 特徴・工夫・努力した点

「バーチャル・カンパニー」の目的は多岐に及ん

でいるが、本学においては2005年度から、この中でも特に「地元産業の理解」に注目し、『群馬』をキーワードにした商品開発をさせている。

また、支援をしてもらう地元企業は、学生たち自らの手で見つけるようにさせ、それ以降の交渉・やりとりなども学生に任せている。この他の面も含め、教員はできるだけ「サポートする」という立場で接するようにしている。

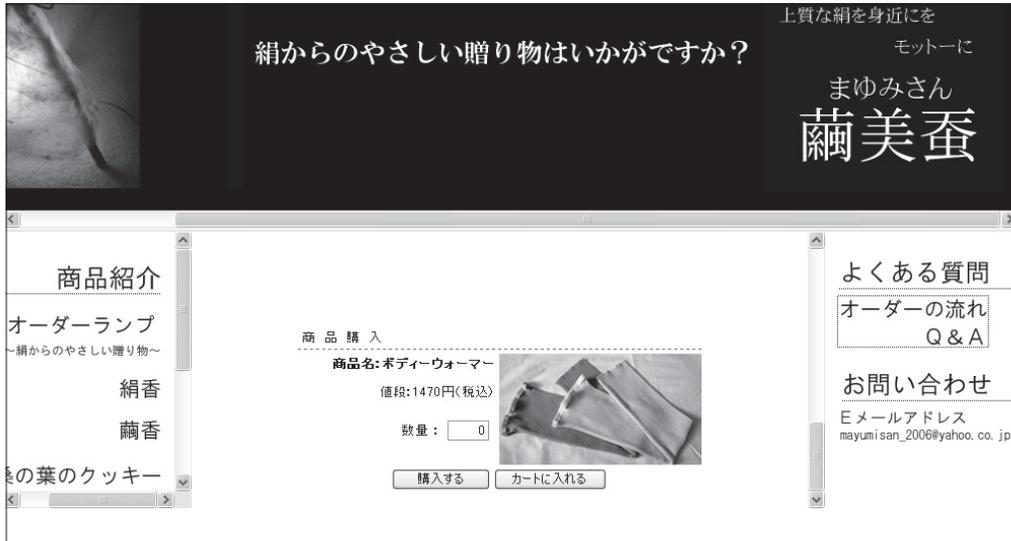
## 実践内容

授業の受講人数が確定するとグループ分けをし、仮想企業を作らせる。その後、商品開発のキーワード『群馬』のもと、各企業はどの分野を取り扱うかを検討する。

開発分野が決まると、どのような商品を開発したいかを考え、それに見合う地元企業を自分たちで探し出し、支援してもらうよう努力をする。

支援してくれることが決まれば、そこからは支援企業と二人三脚で活動していくことになる。商品開発が軌道にのったら、HPの作成に着手し、それを完成させ、バーチャル・モールにUPする。

参加校との電子商取引を実際に経験しながら、その後、「バーチャル・カンパニー」の全国大会である『トレードフェア』に参加し、自分たちの



成果を発表する。

## 実践結果

2004年度から商品開発の成果を毎年11月に行われるバーチャル・カンパニーの全国大会である『トレードフェア』で報告している。

トレードフェアとは、通常インターネット上で取引している「バーチャル・カンパニー」の参加者が一斉に京都に集まり、対面販売を体験すると同時に、商品アイデアの新奇性や事業内容、プレゼンテーション、セールスマナーなどの優劣を競うものである。

本学においては、2005年度・2006年度と2年連続で優秀な成績を収めることができている。これは『群馬』を生かした商品開発をアピールできており、地元企業との連携もうまくいっていることが評価されたものと考えられる。

また、これまでに学生のアイデアのもと、実際に企業が商品化するものも出てきている。2007年春には、食品工業株式会社と仮想企業『八百米(やおまい)』(現在は『優麺堂』として活動中)が共同開発したカップめん「冷しシリーズ」3品が発売された。

また、バーチャル・カンパニー名である『繭美

蚕(まゆみさん)』は、メリヤス株式会社によりブランド化され、商品が販売されている(資料)。

この他にも、過去の支援企業を訪問すると、学生たちが当時考えていたアイデアを商品化しているケースも見受けられる。

## 考察(今後の課題)

これまでのほとんどの「バーチャル・カンパニー」は、1年というスパンで立ち上げ閉鎖する、を繰り返してきたが、2005年度から2年連続で行った『繭美蚕』が大きな成果を残したこともあり、支援企業との連携も含め、かなり進んだ「バーチャル・カンパニー」はできるだけ存続することが、企業と大学のお互いにとって、メリットになりそうである。

実際に、2007年度においては、メンバーは変更されているが『繭美蚕』が3年目、『優麺堂』『茶工房』が2年目の活動をしている。

この他に、支援企業と連携して、実際に世の中で売れるような商品をより多く開発するためにはどのようにしていくか、支援企業をどのように選定していくか、開発した商品に関する知的財産の問題を企業と大学の間でどうしていくか、などの問題が今後の課題としてあげられる。